

2023  
**11/19** (日)  
 8:50~9:50  
 香川県県民ホール  
 (レクザムホール)  
 第2会場 (小ホール)



第64回日本視能矯正学会 共催モーニングセミナー2

# 世代別コンタクトレンズの トリセツ 眼の健康は人生の質を決める!



**座長** 糸井 素純 先生 道玄坂糸井眼科医院 院長

人生100年時代と言われる今、目の健康を保ち視覚機能を維持することは、今以上に「Quality of Vision」が重要となります。さまざまな付加価値のついたコンタクトレンズ（以下、CL）の普及により、小児から高齢者と年齢層は広い世代にまたがり、適応自体も広がっています。目の健康寿命を延ばし生活スタイルを含めた世代ごとに適したCL処方こそ、眼科医療の果たすべき大きな役割と考えます。

本講演ではCL臨床において豊富な経験をお持ちの先生方に症例を交えながら、皆さまのCL知識と臨床をアップデートしたいと考えています。先ず山岸景子先生から学童期から青年期ついて、次に東原尚代先生から成人期から壮年期についてご講演いただきます。本講演が皆さまのお役に立つとともに、CLトラブルに悩むユーザーを一人でも減らすことができれば幸いです。皆さまのご参加をお待ちしております。



**初めが肝心、若年者のコンタクト。  
 若年者にこそ適切な処方を。**

**演者** 山岸 景子 先生  
 かしはら山岸眼科クリニック 副院長



**年齢に合わせた最良のコンタクトレンズ選び。  
 長く使い続けるための秘訣は？**

**演者** 東原 尚代 先生  
 ひがしはら内科眼科クリニック 副院長

# 世代別コンタクトレンズのトリセツ

## 眼の健康は人生の質を決める!

**座長** 糸井 素純 先生 道玄坂糸井眼科医院 院長

1984年	順天堂大学医学部 卒業	1995年	東京警察病院眼科 副医長
1988年	京都府立医科大学大学院 修了	1997年	順天堂大学医学部眼科 非常勤講師
1991年	順天堂大学医学部 眼科助手	1998年	糸井眼科医院(表参道) 院長
1992年	豪州New South Wales大学留学	2007年	医療法人社団松六会 道玄坂糸井眼科医院 院長
1993年	米国ロチェスター大学留学(研究指導員)		

### 初めが肝心、若年者のコンタクト。 若年者にこそ適切な処方。

**演者** 山岸 景子 先生 かしはら山岸眼科クリニック 副院長

2001年 3月	京都府立医科大学 卒業	2010年 4月～	京都府立医科大学円錐角膜外来担当
5月	京都府立医科大学眼科入局 同付属病院研修医	2011年 4月	景和会大内病院眼科 医員
2003年 4月	バプテスト眼科クリニック 医員	2013年 10月	西陣病院眼科 医長
10月	みどりが丘病院眼科 医員	2015年 4月	祐生会みどりが丘病院眼科 医長
2005年 4月	福知山市民病院眼科 医員	2018年 4月	かしはら山岸眼科クリニック 副院長
2007年 4月	藤枝市立総合病院眼科 医員		

近年近視児童が増加し、眼鏡装用を開始する年齢が早まっています。しかもCOVID-19が流行してからはマスク生活が始まり「曇るので眼鏡では生活しにくい」といった声も多くきかれるようになり、医療現場としてもいったい何歳からコンタクトレンズ(以下、CL)装用を許可すべきなのか、悩む場面もしばしばです。また、若年者は涙液も豊富、調節力もしっかりあるということで、視力がすんなりと出てしまうのですが、実はここには大きな落とし穴があります。本講演では、若年者において最初のソフトCL選択と患者教育がいかに重要か、そして処方時に気をつけるポイントは何かについて一緒に考えたいと思います。

### 年齢に合わせた最良のコンタクトレンズ選び。 長く使い続けるための秘訣は?

**演者** 東原 尚代 先生 ひがしはら内科眼科クリニック 副院長

1999年	関西医科大学 卒業	2009年	京都府立医科大学視覚機能再生外科学 後期専攻医員
	京都府立医科大学眼科学教室	2011年	ひがしはら内科眼科クリニック副院長、医学博士
2000年	バプテスト眼科クリニック		京都府立医科大学眼眼科 円錐角膜・コンタクトレンズ外来 (～2020年)
2003年	京都府立医科大学視覚機能再生外科学大学院	2016年	京都府立医科大学視覚機能再生外科学 客員講師
2007年	愛生会山科病院眼科 医長		

日本のコンタクトレンズ(以下、CL)市場規模は米国に次いで世界第2位となり、今後、CLの市場規模はますます拡大していくことが予想されます。学生時代からCL装用を開始し、最初こそ真面目に定期受診をしていたユーザーも、社会人になると多忙を理由に眼科への定期受診を怠り、インターネットで気軽にCLを購入する方が多くなる印象があります。また、青年期は仕事やプライベートでもデジタル機器を長時間使用し、眼疲労やドライアイの悩みを抱えるユーザーも少なくありません。さらに、40歳以上になると老視のためCL装用を自己判断で諦めてしまう人も散見します。本講演では、目の不調を訴えて来院された青年期から老視世代の患者さんにどのように接し、最良のCLを選択するのか、また、長く使い続けられるCLを提案する秘訣について考えてみたいと思います。